

共生

奈良県生協連

2017年 1月

NO.103



第27回奈良県生協大会
(2016年12月3日)
ひとりぼっちをつくらない
～子どもたちの未来と
共生社会を考える～
法政大学教授 湯浅 誠 氏



もくじ

新年のごあいさつ 瀧川潔奈良県生協連会長… 1
新年のごあいさつ 荒井正吾奈良県知事… 2
第27回奈良県生協大会…………… 3・4
食の安全懇談会…………… 5
おじゃましました～コープ自然派奈良の巻～… 6

環境のページ…………… 7
いきいき健康まつり…………… 8
奥大和ゆうゆう祭…………… 9
3.11を忘れない…………… 10



年の初めに「トリの声」を しっかり聞いて生協の活動を

奈良県生活協同組合連合会 会長 瀧川 潔



奈良県生協連につどう会員、組合員のみならず、明けましておめでとうございます。

昨年は当連合会の諸活動に、何かとご支援ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。心から感謝申し上げますとともに、今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

景況の厳しい中で総体的には前進

昨年は相変わらずの景況厳しい中、生協の諸活動は一步ずつ広がりを見せ、事業においても厳しいながらも総体としては前進といえる成果を残しています。特に事業では競争が一段と激しくなる中で、組合員の皆さんの信頼に基づくご協力、役職員の「組合員とともに」の事業態度がこれを支えてきたといえるでしょう。

一方では、アメリカの「トランプ旋風」に見られるように、予測のつかない動きがあちこちに見られ、マスコミの政治にからむ報道自体も何やら「怪しげ」で、「自主規制」と「世論誘導」が強まった感が否めません。世界の経済は、実体経済(世界各国のGDP合計、約5千兆円)の十数倍から数十倍といわれる金融及び投機マネーが、労働価値とは無関係の儲けを漁って飛び交う「実体のない超金融資本主義」、カネの世の中になっています。IS軍の傭兵、米軍の下請け「戦争会社」、中国の拝金主義への変質、日本の原発もカネのため廃止方向が出せない等々。1%の人に富が集中する格差は、中間層の没落によってますます広がり、底辺の国民はカネに縛られて命すら粗末にされる状況もあります。「政府は国民のためにあ

る」「民主主義が基本」という近代国家はどこに行ったのでしょうか。

協同組合は人が中心

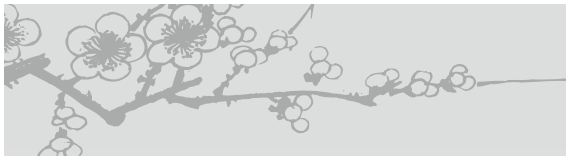
おカネは経済社会では大切なものですが、協同組合はおカネではなく人が中心であるとする経済団体です。人つまり民、民主主義が基本ということです。人間がカネにコントロールされる世界ではなく、人間がカネをコントロールする世界にして行くことが、今こそ求められています。

私たち生協は、今年も「組合員のために」を基礎において着実に活動と事業を進め、組合員と役職員が一丸となって、厳しい経済状況を乗り越えて行きましょう。奈良県のすみずみに、協同組合の理解を広げ、諸活動を進めて、地域に、日本に、そして世界に、しっかりと「民主主義」が広がり定着していくように頑張ろうではありませんか。

鶏の声で目を覚まして、 「トリ(3つ)」の基本活動を

今年の干支は「酉(とり)」、「目を覚ませ」のトリの声をしっかりと聞いて「トリ(3つ)」の基本活動、利用、出資、運営参加を、消費・共済・医療・福祉の各分野で組合員の皆さんと一緒に、着実に進めて行くことが大切です。

今年は民主主義の基礎システムである各種選挙の年でもあります。選挙は、カネではなく人を中心に行動できる人を、政策等で調べて選ぶことが大切です。そのうえで、私たち本来の活動である、3つの基本活動をしっかりと進めてまいりましょう。



平成29年 新年ごあいさつ



奈良県知事 荒井 正吾

奈良県生活協同組合連合会、会員生協及び関係者の皆様、明けましておめでとうございます。

平成29年の年頭にあたり、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年4月には、神武天皇二千六百年式年祭の儀山陵の儀に際し、天皇皇后両陛下がご来県くださいました。改めて、奈良は日本のはじまりの地であることの誇りとありがたさを感じさせていただきました。本年も両陛下のご健勝とご皇室のいやさかを心からご祈念申し上げます。

また、昨年は米大統領選を始めとして、世界の政治経済の動きが予想を超えて激しくなってきた感じがいたしました。わが国の政治経済も変動が続いていますが、より安定した、より発展的な方向へ向かうよう祈るばかりです。わが奈良県では、不安定な世界の動きにかかわらず、しっかりとした歩みで豊かで住みよい奈良が実現できるよう、精一杯まじめにこつこつと頑張らせていただきますので、引き続き皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

奈良市内の県営プール跡地周辺では、世界最高級ホテルのJWマリオットの進出が決まり、天平風の屋外多目的広場や大会議室等の建設が始まっています。桜井市安部地区に開校した「なら食と農の魅力創造国際大学校」では、研修施設であるオーベルジュとレストランが堅調であり、周辺のセミナーハウスなどの整備にも取り組んでいます。

奈良の持つ文化の力で全ての人を元気にするべく、昨年も「奈良県大芸術祭」におい

て全760イベントを開催いたしました。その一環として、奥大和地域特産品の生産・販売の振興と、地域の風土・歴史・文化に根ざした魅力を発信するために実施しました「奥大和ゆうゆう祭」におきましては、貴連合会及び会員生協の皆様から、例年多大なご支援・ご協力をいただき心からお礼申し上げます。

本年は奈良県で初めて国民文化祭を実施いたします。障害者芸術・文化祭と全国で初めて一体開催し、これまでの奈良県大芸術祭と合わせてユニークな文化事業に取り組んでいきます。

また、平城宮跡の冬のイベント「奈良大立山まつり」や、「ムジークフェストなら」など、奈良らしい文化の催しで多くの観光客をおもてなしいたします。

昨年4月には、貴連合会の会員生協のならコープ様との間で、「連携と協力に関する包括協定」を締結させていただきました。今後も、県民サービスの向上及び地域の活性化を推進するため、高齢者・障害者支援、女性・子育て支援、子ども・青少年健全育成等の多岐の分野にわたり、連携して取り組んでいきたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

今年も皆様とともに、奈良の発展に力を尽くしたいと思っております。重ねて皆様の一層のお力添えを心からお願い申し上げます。

最後に、貴連合会及び会員生協の皆様のますますのご発展を祈念申し上げて、新年のご挨拶といたします。

第27回奈良県生協大会を開催しました

ひとりぼっちをつくらない ～子どもたちの未来と共生社会を考える～



2016年12月3日 奈良商工会議所5階大ホール

12月3日、奈良商工会議所で第27回奈良県生協大会を開催しました(後援:奈良県、奈良市、奈良県社会福祉協議会、近畿労働金庫)。「ひとりぼっちをつくらない～子どもたちの未来と共生社会を考える～」をテーマに、貧困問題の社会活動家として著名な法政大学教授の湯浅誠氏による講演とリレートークを行い、県及び市町村行政や社会福祉協議会関係、民生児童委員、こども食堂の運営団体等の皆様も多数参加され140人が会場に集まりました。ご来賓の奈良県くらし創造部中幸司部長からはご挨拶をいただきました。



奈良県 中幸司部長



湯浅 誠氏

講演の中で湯浅氏は、子どもの貧困の実態とそれをもたらす要因について説明されました。生活困窮に苦しむ高校生の生の声のスライドも上映して実態を伝え、全国の支援の活動事例にも触れながら、この問題に対する理解をひとりでも多くの人に広げていくこと、ひとりひとりがほんの少しのできることをつないで支援の輪を大きくしていくことを呼びかけられました。

講演内容より抜粋

- 6人に1人のこどもが貧困というが、相対的な貧困なのでそれはとても見えにくい。また「昔に比べれば」という誤解もある。それ故に無理解や支援が届かないことが多い。しかし子どもたちは不安と「きつさ」を感じている。
- 子どもの貧困は大人と違いまったく本人に責任がない。そして少子化が進行している中での30年後を考えると、子どもたちに未来がなければ今大人のわれわれの老後も「詰んで」しまう。実は全世代の問題なのである。
- お金がないことだけが貧困ではない。貧乏+孤立=貧困である。就学旅行に行けないと、そのプロセスにコミットできず、体験も共有できないで友達の輪から外れていく。高齢者の場合も、何とか食費は節約できても香典が出せないと孤立していく。
- つまり貧困は「溜め」がないこと。人を包んでいるバリアのようなもので、例えば失業してもしばらく暮らせる預金、仕事を紹介してもらえる人間関係、など。「溜め」がないと精神的にもダメになり自己肯定感が喪失。自分を大切にできないと児童虐待の被害者から加害者にもつながる場合もある。
- (高校生の声を綴ったスライドを上映)。この声のスライドは中学1年で父親が自殺し生活困難になったが、祖母の援助で進学できた若者が作成した。
- 行政の仕組みや寄付が集まりやすい税の仕組みを作ることが重要。では、民間でできる支援は何だろうか。お金での支援の他に学習支援や子ども食堂などがある。そこにいるだけでも、子どもに体験とそれを通じた価値観に触れる機会をつくることになる。気負わず、その場に一緒にいるだけでも支援になる。「居だけ支援」と呼んでいる。
- 個人情報壁はあるが協力の場をいくつもつくり網の目を張ると困りごとが浮かびあがって、すくい取ることができる。この循環を是非作っていくことが重要だと思う。



講演のあとのリレートークでは、テーマに関連した取り組みについて5名の方にお話をいただきました。奈良県健康福祉部こども・女性局こども家庭課課長の乾新弥氏が「経済的困難及び社会生活上の困難を抱える子どもを支援する奈良県計画」について、奈良県社会福祉協議会次長の今中弘一氏が「生活困窮など困りごとに寄り添う社会福祉協議会の取り組み」について、こども食堂いかるがの平川理恵氏が「こども食堂の活動について」、社会福祉法人ぶろぼのアースカローズぶろぼの新大宮所長の藤原純子氏が「障がい者就労支援などの取り組み」について、市民生活協同組合ならコープ専務理事の山中教義氏が「生協のたすけあいとささえあいの取り組み」について、それぞれ報告されました。

参加者からは「知恵をしまりあるものを活用していくことで、みんながハッピーに暮らせる地域作りが絶対に必要です。」「やはり実感としてはそのような子どもたちの声を聴いたり関わったりする機会がなく、リアルに感じていなかったの、考えさせられる機会になった。」などの声が寄せられ、格差の進行の中でも子どもや困難を抱える人がお互いに大切にされる世の中について、理解と共感がひろまる講演会となりました。



県こども家庭課 乾 課長

生きる力の育成や安心安全な居場所づくりなどの施策が盛り込まれた奈良県の支援計画を説明。



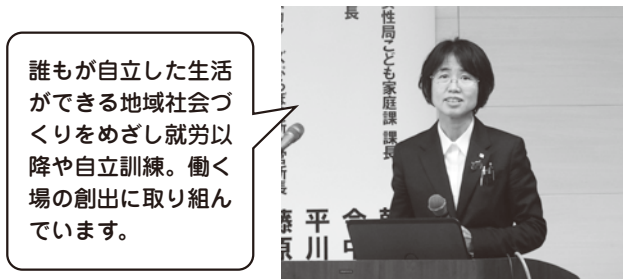
奈良県社会福祉協議会 今中次長

奈良県中和・吉野生活自立サポートセンター事業や子どもの居場所づくりなどに取り組んでいます。



こども食堂いかるが 平川さん

地域の中で多様な関係者が情報共有して連携することが大事です。(こども食堂の様子をスライドで紹介。)



ぶろぼの 藤井純子さん

誰もが自立した生活ができる地域社会づくりをめざし就労以降や自立訓練。働く場の創出に取り組んでいます。



ならコープ 山中専務理事

人や自然、文化等地域の資源を大切にしながら活性化を応援する吉野共生プロジェクト、配送事業を活かした見守りなどに取り組んでいます。



トークコーナーでコメントする湯浅氏(右)

参加者アンケートより

☆ 高校生の声、涙が出ました。お金がないためにできないことがある。あきらめさせている現実が悲しいです。

☆ 貧困と貧乏は違う。お金と孤立で貧困になるのだと改めて考え直し、一つだけの原因に目を向けすぎず、いろいろな要因を考え貧困に向きあっていかなければいけないのだと思いました。

☆ この問題はけっして子どもだけの問題ではないこと、お金や特別な能力のない我々にもやれることがたくさんあることをあらためて知りました。

☆ 地域で支えあえる関係づくりが必要だと思いました。県の施策についてはよく知らなかったのが良い機会となりました。いろいろな報告を聞いてそれぞれが連携していく事により良い奈良県にしていけるのではと思います。



2016年度 食の安全懇談会を開催



テーマを「いわゆる健康食品」に設定し2016年11月7日、奈良商工会議所 中ホールにて開催しました。会員生協（ならコープ、コープ自然派奈良、生活クラブ生協、奈良県生協連）の役職員17人が参加しました。

健康ブームで、健康食品等の基礎的な知識を持たないまま、間違った使い方で逆に健康上のトラブルを起こしてしまう事例もあることから、2015年12月に食品安全委員会委員長名で「国民の皆様へ」と題して「健康食品の安全性」について19項目のメッセージが出されました。これらを受けて「健康食品」についての科学的な考え方を持って判断することができる情報提供とともに、奈良県行政の健康食品に関する取り組みについて学ぶことを目的として開催しました。

食品安全委員会事務局の鋤柄(すきがら)卓夫課長と奈良県消費・生活安全課の中谷英雄主幹を講師にお招きし、それぞれの立場での取り組みの報告がありました。「情報のほとんどは製造・販売事業者からのもので『わからない中での選択』を強いられる。必要性をよく考え摂取量や体調の変化などにも気を付けた上で利用することが大切である。」と鋤柄氏が述べられました。また、奈良県では伝統的な製薬企業が多く、健康食品製造に参入する事業者も多いが、衛生的な製造と販売、適正な表示について監視指導が行われているとの報告がありました。「生協は健康食品を販売する事業者でもあり、効果がわからないものは販売しない検討や判断をお願いしたい」との中谷氏からの要望もありました。意見交換では、「業界での品質保証の仕組みがあまり進んでいないように思う」「効果をうたうCMもある」「健康食品は必要なのか」などの感想が出されました。需要があるから供給がある以上、消費者が正しい情報と知識を持って判断することにより、よりよい市場形成が出来る事につながります。自らのよりよいくらしづくりのためには正しい知識をもつことが大切であることが改めて確認されました。



講師の鋤柄氏(左)と中谷氏(右)

2016年度

第2回 生協・行政協議会を開催

11月10日、本年度第2回目の生協・行政協議会を開催し奈良県消費・生活安全課から姫野隆昭課長はじめ4名のご出席があり、奈良県生協連役員との懇談を奈良商工会議所にて行いました。

奈良県生協連が10月に提出した2017年度県政への要望書について、県からそれぞれの項目に対していねいに回答いただきました。消費者問題では高齢者の被害を防ぐことが継続課題であること、見守りなど地域住民の協力関係を強めることが未然防止に効果があること、その地域内の連携が、表面的に見える生活困窮や困りごとの発見にもつながるなどの認識を共有することができました。このほか、若者の消費者活動参加や、奨学金問題、木質バイオマス発電などについても質問があり、それぞれ活発に意見交換されました。



(中央) 奈良県 姫野課長

2017年度県行政への要望書(要点)

- 1. 食の安全安心の施策:** 食情報や基本知識を学ぶ場の確保、消費者よる自主的な学習会の応援
地産地消や世界の食糧事情、エシカル消費などを広げた学校教育/機能性表示食品の監視強化
「奈良県産情報開示農産物」「ならハサップ」「食品表示サポーター」など県独自制度の広報と普及/
- 2. 安心してらせる地域づくり:** 生協との連携のお願い/地域支援事業の自治体支援/住民同士の
ささえあい活動への支援/「介護者のケア」施策/「無料低額診療」の周知/子どもたちの居場所づく
りのサポート/市町村の奨学金の把握と県の給付金制度拡充/県民の防災意識を高める取組み
- 3. 消費者行政:** 消費者教育の推進/迷惑勧誘の防止/新しい集団的消費者被害回復訴訟制度の周知
- 4. 環境・エネルギーの施策:** 「パリ協定」を受けた奈良県削減目標に期待/再エネと省エネ対策、電気以
外の熱利用の推進

おじゃましました ～コープ自然派奈良の巻～ こども和紅茶マスターになろう!

2016年12月4日～5日第15回全国地紅茶サミットin奈良が奈良県庁回廊で開催されました。奈良では、コープ自然派奈良が、CO・OP共済地域ささえあい助成の協賛を受け、小学3～6年生を対象にした6回連続セミナーを9月から開催していました。その子どもたちからなるこどもティーパーティ実行委員会による「こどもティーパーティ」を全国大会関連イベントと位置付け、最終回の12月4日に奈良町物語館(奈良市)で開催されました。

11月20日に第5回講座が奈良市生涯学習センターで開かれるとお聞きし、おじゃましました。

メモ

全国地紅茶サミットは、各地の地紅茶生産者などが集い、地紅茶のPRとともに情報交換などで交流を深めることを目的に、2002年から年に一度、開かれています。第1回は鳥取県名和市で開催され、その後各地で開催されています。

どんなふうにおいしいの?

磯淵猛さん(紅茶研究家)から紅茶の良い所や時代背景のお話と美味しい紅茶の入れ方を教えていただきました。自己紹介では名前と「好きな食べ物」について紹介する約束。チョコレート、寿司などがあげられましたが、磯淵さんは、「どんな風においしいのか詳しく伝えられるようになることが大切だよ」と話されていました。



美味しい紅茶の入れ方

- ①酸素を含ませたたっぷりの水を沸かし95℃で止める。沸かし過ぎはNG
- ②20～30cm上から勢いよくポットに注ぎ、ジャンピング(茶葉の上下運動)を待ってからカップに注ぐ。



紅茶の入れ方を学ぶ子どもたち

21人の子どもたちが「こども和紅茶マスター」をめざして難しい話も熱心に聞いていました。水食(すいしょく:紅茶の色)という言葉も教えてもらいました。

◆こども和紅茶マスターになろう プログラム◆

- ① 9月4日お茶について知る・体験する1
農とお茶の話 岩田文明さん(月ヶ瀬健康茶園)
- ② 9月25日お茶について知る・体験する2
お茶摘み体験&加工体験 月ヶ瀬健康茶園
岩田文明さん(月ヶ瀬健康茶園)
藤原一輝さん(全国地紅茶サミット世話人)
- ③ 10月2日お茶に合うお菓子を作ろう
葛菓子づくり 中井孝嘉さん(中井春風堂)
- ④ 10月30日ティーパーティのための こども会議
- ⑤ 11月20日紅茶について知る・体験する
紅茶のお話と楽しみ方 磯淵猛さん(紅茶専門家)
- ⑥ 12月4日「奈良では」のこどもティーパーティ
磯淵猛さん(紅茶専門家)

みんなで準備した和紅茶と葛菓子でお客をおもてなしよう。

紅茶は「同じ気持ちで話し合う」という飲み物



子どもたちに参加した動機を尋ねました。「自分から」という人も多い中、お菓子が美味しそうだからという子どもらしい答えも返ってきました。募集定員20名をはるかに超える応募があったとのこと。コープ自然派奈良の理事であり、奈良の学校給食を考える会の上市さんたちが中心になって講師の磯淵さんと、1回だけの講座ではなく連続講座を実施したいとの思いから、企画したそうです。紅茶の奥深さを感じ、心豊かになる時間でした。

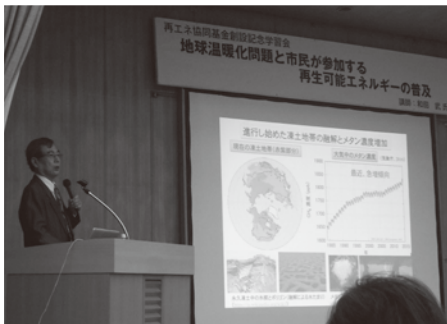
一般財団法人 再エネ協同基金 創設記念講演会が開催



(主催：市民生活協同組合ならコープ 共催：奈良県生活協同組合連合会)

10月29日奈良県文化会館小ホールにて、一般財団法人再エネ協同基金の創設記念学習会が開催され、ならコープ役職員、組合員ほか再生可能エネルギーに関心がある方など160人が参加されました。

「地球温暖化問題と市民が参加する再生可能エネルギー普及」と題して、再エネ協同基金評議員の会長でもある和田武氏(和歌山大学客員教授、自然エネルギー市民の会代表)の講演があり、再エネ協同基金の瀧川理事長から役員紹介がありました。参加者は、和田武氏の再生可能エネルギー普及に市民が関わる意義について、ドイツやデンマークなどの先進地の事例を交えながらの熱意あるご講演に、熱心に耳を傾けました。この一般財団法人



講演をされる和田武先生

再エネ協同基金は、「地域での再生可能エネルギーや省エネルギーを普及する事業をすすめ、自立分散型エネルギー社会の実現をめざし、持続可能な社会づくりと地域環境保全に寄与すること」を目的に、ならコープが設立しました。奈良県生協連の瀧川潔会長がこの財団法人の理事長に就任しています。ならコープは、ならコープエネルギー政策に基づき、奈良県とその近隣において、再生可能エネルギーや省エネを普及させるために2016年9月にこの財団法人を設立しました。事業所の屋根に設置した太陽光発電で得た売電収益の一部を基金に毎年寄付し、グループ会社も団体賛助会員として基金への寄付を行うとしています。同時に、財団法人を支援していただける賛助会員(再エネふれんず)を募集しています。

「自然エネルギー学校・なら2016」(第1～3回)

場所：ぶろぼの福祉ビル・やまと会議室

奈良県生協連が支援する一般社団法人地域未来エネルギー奈良主催の「自然エネルギー学校・なら2016」の第1・2回講座が「ぶろぼの福祉ビル」にて、第3回がやまと会議室にて10月～12月にかけて開催されました。

第1回は「再生可能エネルギーの最新動向と市民が果たす重要な役割」をテーマに和田武氏(和歌山大学客員教授、自然エネルギー市民の会代表)が講義。第2回は会場となる「ぶろぼの福祉ビル」のCLT工法ビルについて山内民興ぶろぼの理事長から説明していただきました。午後は地域再生機構の森大頭氏から、木質バイオマスの基礎知識の講義を受け、木質バイオマスの利用についてワークショップが行われました。第3回は、住宅の省エネと健康について吉田伸治准教授(奈良女子大学)の講義と伊東真吾氏(コープエナジーなら)による太陽熱利用についての講義がありました。受講者は、生協職員、地中熱利用専門企業、環境NPO、地球温暖化対策地域協議会メンバー、行政職員など様々な立場の方が参加されています。第4回は3月3日・4日に岡山県西粟倉村の再エネ導入による村の活性化事例の見学研修を予定されています。



第2回講座ワークショップ
A町長に木質バイオマスを利用する提案をしよう!



CLT工法ビルの説明を受ける

奈良県医療福祉生協 みみなし診療所 第4回 いきいき健康祭り

11月23日、奈良県医療福祉生協第4回「いきいき健康祭り」がみみなし診療所で開催されました。奈良県医療福祉生協の4つの委員会、ならコープの委員会と支所、コープ自然派奈良、生活クラブ生協によるカレーや厚揚げ、石鯛作りなどの模擬店が出展されました。また、フリーマーケットも開催され多くの参加者で終日にぎわいました。

生協ホールでは奈良県医療福祉生協による健康チェック、健康相談、協同福祉会による介護相談、全労済による防災啓発、橿原市スポーツ推進委員による体力測定などのブースがありました。

奈良県生協連ブースでは奈良県医療福祉生協と進めている「いつでも健康チャレンジ」で健康に過ごすための取り組みへの宣言を呼びかけました。スタンプラリーのコースになっていたこともあり、快眠コース、ウォーキングコースなど8コースに131人の方が参加、こども向けの「けんこうチャレンジ」には「はみがき」「うんどう」「はやねはやおき」など6コースに24人の子どもたちが宣言し、参加賞の歯ブラシをお渡しました。

また、奈良県健康づくり推進課健康推進係から奈良県が進める「減塩運動」グッズをお借りしました。減塩ソング「適塩ソング～美味しい楽しい適塩生活～」をBGMに流し、減塩リーフレットを配布「減塩で健康寿命を延ばそう」と、バランスの良い食生活とともに減塩のすすめをしました。



あいさつする奈良県医療福祉生協 仲宗根理事長



ならコープ生活クラブ生協も模擬店に出店しました



体力測定



いつでも健康チャレンジ



健康チェック

恋の窪いきいき健康づくりデー

スタート
しました!



奈良県医療福祉生協では、昨年10月から奈良市恋の窪にある「あすならハイツ恋の窪」1階にて毎月5日、健康チェック(血圧、体脂肪、骨密度測定)を開催しています。

3回目となった12月5日は、地域にチラシを撒いてお知らせしたこともあり少しずつ参加者が増えてきました。

奈良県医療福祉生協が進めている「地域まるごと健康づくり」はこんな小さな集まりの場からはじまります。緑の“のぼり”「健康チェック実施中」が出ていれば、ぜひ立ち寄って健康づくりの第一歩にしてみてください。

次回は2月5日を予定しています。



奥大和ゆうゆう祭が開催されました

奈良県医療福祉生協と奈良県生協連は、健康チェックと「健康チャレンジ」を呼びかけました!

10月2日に、吉野木材協同組合連合会市場および吉野小学校で「奥大和ゆうゆう祭」が開催され、約3千人が参加しました。

主催は奥大和ゆうゆう祭開催協議会（奈良県、ならコープ、19市町村、奈良県森林組合連合会、奈良県生協連）。奥大和の特産品や地域の風土・歴史・文化に根ざした魅力を発信し、奥大和の振興および活性化を図ることを目的に開催され、今回で4回目の開催になります。

ならコープグループ及び取引先、その他、地域の団体から約80ブースの出店があり、特産品の販売や試食、お餅のふるまい、ウォーキング、抽選会、クイズラリーなど多くの人で、にぎわいました。

奈良県医療福祉生協と奈良県生協連は、「健康チェック」と「健康チャレンジ」コーナーを設け、参加呼びかけを行いました。

奈良県医療福祉生協が行った、血圧・体脂肪チェックは、健康への関心も高く62人が参加しました。健康づくりや教えあい、予防活動に取り組む、奈良県医療福祉生協の活動も紹介しました。

「健康チャレンジ」は、バランスの良い食事を心がける、禁煙をするなど8つのコースから自分にあったコースを選択して、1か月間取り組む宣言をしていただくコーナーでしたが、40人が参加しました。

オープニング 和太鼓演奏



ご当地キャラ紹介



多くの参加者でにぎわいました



奥大和の特産品コーナー



奈良県医療福祉生協 健康チェック



奈良県生協連 健康チャレンジコーナー



3.11を忘れない

みやぎ生協から
被災地・宮城のいまをお伝えします

～心と福祉と 教育の専門家が 学校を外側から サポート～

2016年12月5日



石巻市にある東部教育事務所。5人の専門職員がチームを組んで学校を支援しています。左から三上由紀子さん(臨床心理士)、浅野芳博さん(指導主事)、佐藤慎也さん(指導主事)

震災で環境が大きく変わった子どもたちに、もうじき6度目の春が来ます。被災地では復興公営住宅の建設が進み、まちづくりも盛んです。しかしそれはあくまで「復興途上」の風景です。「宮城県内にはいまなお仮設住宅から通学する児童生徒が約1,700人、学校が遠くなったためスクールバスで通学している子が約2,400人います」。宮城県教育庁の高橋義孝さんは、復興途上のまちで暮らす子どもたちの厳しい状況について、そう説明します。

今年、県内の小学5年生と中学2年生を対象に行った調査では「震災を思い出して気持ちが落ち着かなくなる」と回答した児童生徒が小学5年生で約2割、中学2年生で約1割いました。宮城県は震災発生直後から児童生徒の心のケアに取り組んでいます。今年4月には「心のケア・いじめ・不登校対策支援チーム」が発足。その訪問・相談チームとして東部教育事務所内に「児童生徒の心のサポート班」(以下サポート班)が設置されました。

サポート班は、カウンセリングなどを担う「心理士」、福祉の視点で向き合う「スクールソーシャルワーカー」、教育の専門家として学校を支援する「指導主事」の3職種で構成されています。沿岸14市町を重点的に、学校訪問や電話・来所相談などを通じ、専門性を活かしたさまざまな取り組みで学校を外側から支援していきます。活動開始からまだ1年経っていませんが、サポート班指導主事の浅野芳博さんは「学校を巡回するなかでいろいろ相談を受けたり、“不登校の子どもについて3職種で対応を見立ててほしい”と要望されたりする機会が増えた」と話します。

子どもたちはひとり一人異なる事情を抱えています。最近ようやく被災体験を言葉にできるようになった子もいれば、突然フラッシュバックを起こして体調を崩す子もいます。「我々のサポートで、悩みを抱えた子どもや保護者、先生たちの気持ちが少しでも楽になれば」と浅野さん。子どもたちが安心と希望を持って学ぶ環境をつくるため、サポート班による心のケアの取組は続きます。

県連日誌

10月

- 1日・2日 奥大和ゆうゆう祭
- 4日 近畿地区生協府県連協議会
- 6日 温暖化防止ネットワーク
関西拡大世話人会
- 15日 自然エネルギー学校・なら2016
(第1回)(主催:一般社団法人
地域未来エネルギー奈良
共催:奈良県生協連)
- 26日 奈良県生協連2016年度
上半期監事監査
- 27日 近畿地区大規模災害協議会
- 29日 福島県生協連創立70周年
記念式典・祝賀会

11月

- 2日 地方消費者フォーラム実行委員会
- 5日 自然エネルギー学校・なら2016
(第2回)(共催:奈良県生協連)
- 7日 食の安全懇談会
- 10日 第2回生協行政協議会
- 10日 第4回奈良県生協連理事会
- 14日 関西電力定期懇談会
(関西消費者団体連絡協議会)
- 15日 近畿農政局と消費者団体意見交換会
- 18日 第3回なら消費者ねっと
奈良県消費行政との懇談会
- 22日 大阪ガスと関西消費者団体
連絡会との懇談会
- 23日 いきいき健康まつり
(奈良県医療福祉生協)

12月

- 1日 日本生協連関西地連運営
委員会・県連活動推進会議
- 3日 第27回奈良県生協大会
- 17日 COP22報告会(共催 温暖化
防止ネットワーク関西)
- 20日 奈良県農政推進会議
農村活性化部会
- 26日 第4回近畿生協府県連・
ろうきん合同会議



講演会

地域に住み続けるために必要なこと

～エネルギー永続地帯研究から～

講師：倉阪秀史氏(千葉大学大学院社会科学研究科教授) 場所：奈良商工会議所 4階中ホール
日時：2017年1月28日(土) 13:15～16:30 定員：90人 参加費：500円
[申込み・お問い合わせ] TEL：0742-34-3535(奈良県生協連) FAX：0744-33-5406
Eメール：otentosan02@yahoo.co.jp
主催：NPO法人サークルおてんとさん 共催：奈良県生協連

編集後記

机の角にぶつけ右足小指に怪我。駅から遠い事務所への道は足を引きずり歩く身には苦難の道となりました。身体の小さな不具合が全身疲労を引き起こすことを学んだり、「弱い・不自由」の角度から街の交通事情をみる事ができたのは怪我の巧妙かもしれません。(由)

デイサービスを利用しはじめた92歳の義母とやんちゃな2歳と数時間おきに泣く2か月の二人の孫との生活は、毎日が新たな発見の連続です。一方で、現在の社会の様々な問題も垣間見るような不思議な時間です。今年も、それぞれに合った元気な羽ばたきができることを願っています。(和)

昨年の10月に次男夫婦に女の子が生まれました。この子が二十歳になるのは2036年。そのころの世界は、日本はどうなっているのでしょうか。平和問題、温暖化問題：平和で安全な世の中になっていると願うばかりです。これは今の大人の責任。(順)

毎年タイミングが合わず、紅葉を逃していましたが、昨年やっと紅葉を満喫しました。今はやりの「ご朱印」を旦那が集めたので、それのお供もかねていろいろな社寺仏閣に向きました。帰りの渋滞がなければもっと楽しいのに、今度は電車で出かけようと言ってみようかな？(佳)